

事務事業評価表(既存事業)

コード 13-2-4	事務事業名 少年サッカー教室	所管部課 生涯学習部スポーツ振興課					
事務事業の概要	事務事業の目的 サッカーの技術向上及び競技力を養うことを目的とすることで、より多くの参加者の増を目指す。		総合計画上の位置づけ (政策)創造性の育つまちづくり (施策)スポーツ・レクリエーション活動の振興(創3-3) (主要施策)スポーツ・レクリエーションの普及				
	実施内容、実施方法 FC東京による小学生を対象のサッカー教室を実施する。		根拠法令等				
	事業開始時期	平成 14 年度	実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()			
評価指標の設定	活動指標名 開催回数	活動指標の考え方(定義) サッカー教室を開催した回数					
	成果指標名 参加者数	成果指標の考え方(定義) サッカー教室に参加した人数(目標600人)					
事務事業データ			単位	14年度	15年度	16年度	17年度
	事業費(A)		千円	452	1,072	341	331
	国庫支出金						
	都支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源			452	1,072	341	331
	所要人員(B)		人	0.10	0.10	0.10	0.10
	人件費(C)=平均給与×(B)		千円	825	827	833	833
	総コスト(D)=(A)+(C)		千円	1,276.60	1,899.30	1,173.80	1,163.80
	単位当たりコスト (E)=(D)/(参加者数)		千円	6.38	3.80	1.75	
	歳入		千円				
	活動指標	目標値	回			1	1
		実績値	回	1	1	1	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値	人			600	600	
	実績値	人	200	500	670		
成果指標	目標値						
	実績値						
事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)		参加者から、とても勉強になったと喜ばれている。				
	国・都・他市・民間等 における類似事業		スポーツセンター「少年サッカー教室」・「ジュニアユースサッカー大会」				
	運営上の制約条件・ 外部要因等		特になし				

コード 13-2-4	事務事業名 少年サッカー教室	所管部課 生涯学習部スポーツ振興課
---------------	-------------------	----------------------

事業所管部評価	項目	評価結果	判断理由、説明等
	実績	<input checked="" type="checkbox"/> 極めて良好 <input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	参加人数が年々増加しており、16年度は対前年度比34%増となった。
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	サッカーがメジャースポーツとして児童青少年の間に定着しつつある昨今、児童青少年のスポーツ振興に十分寄与していることから、今後についても事業の継続が必要と考える。
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 大きく改善 <input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	西東京市が出資しているFC東京から講師を派遣してもらっていることから、講師謝金が低額で、非常に効率的な事業と考える。
	公平性	<input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	市内全域の小学生が対象。
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	今後も事業を継続していくことが望ましい。

17年度における改善点	16年度予算から経費を16.6%削減した。講習の内容が定例的になっているためメニューの変更が必要である。
-------------	--

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

評価の視点

- 実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など
- 必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など
- 効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など
- 公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など
- 総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。
 - 拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。
 - 継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。
 - 改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。
 - 抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。
 - 廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。